

事項	第1花国产子の効率的肥育技術																																						
ねらい	低コストで牛肉を生産するために、県基幹種雄牛「第1花国」産子を用い、肥育期の給与飼料が肥育期間、産肉性に及ぼす影響について検討したところ、産肉性が劣ることなく肥育期間の短縮及びコストの低減が図られたので参考に供する。																																						
指導	<p>1 濃厚飼料の配合割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">濃飼区分</th> <th colspan="5">配合割合 (%)</th> </tr> <tr> <th>濃厚飼料</th> <th>ふすま</th> <th>大豆粕</th> <th>大麦</th> <th>生米糠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期用</td> <td>75</td> <td>20</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中期用</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>後期1用</td> <td>77.5</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>後期2用</td> <td>67.5</td> <td></td> <td></td> <td>30</td> <td>2.5</td> </tr> </tbody> </table>				濃飼区分	配合割合 (%)					濃厚飼料	ふすま	大豆粕	大麦	生米糠	前期用	75	20	5			中期用	100					後期1用	77.5			20	2.5	後期2用	67.5			30	2.5
濃飼区分	配合割合 (%)																																						
	濃厚飼料	ふすま	大豆粕	大麦	生米糠																																		
前期用	75	20	5																																				
中期用	100																																						
後期1用	77.5			20	2.5																																		
後期2用	67.5			30	2.5																																		
参考内容	<p>2 飼料給与方法</p> <p>10～12か月齢において、飼料全体の粗飼料割合(粗濃比)が30%となるよう給与を行い、13か月齢以降は濃厚飼料及び粗飼料は飽食とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">給与濃厚飼料</th> <th>前期</th> <th>中期</th> <th>後期1</th> <th>後期2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">27か月間肥育 (試験区)</td> <td>給与月齢</td> <td>10～14.5</td> <td>14.5～22</td> <td>23～25</td> <td>26～27</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">給与内容</td> <td rowspan="2">濃厚飼料 粗飼料</td> <td>10～12か月齢 粗濃比30%</td> <td colspan="2">飽食</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">飽食</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">30か月間肥育 (対照区)</td> <td>給与月齢</td> <td>10～14.5</td> <td>14.5～25</td> <td>26～28</td> <td>29～30</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">給与内容</td> <td rowspan="2">濃厚飼料 粗飼料</td> <td rowspan="2">粗濃比20%</td> <td colspan="2">飽食</td> </tr> <tr> <td colspan="2">飽食</td> </tr> </tbody> </table>				給与濃厚飼料		前期	中期	後期1	後期2	27か月間肥育 (試験区)	給与月齢	10～14.5	14.5～22	23～25	26～27	給与内容	濃厚飼料 粗飼料	10～12か月齢 粗濃比30%	飽食			飽食		30か月間肥育 (対照区)	給与月齢	10～14.5	14.5～25	26～28	29～30	給与内容	濃厚飼料 粗飼料	粗濃比20%	飽食		飽食			
給与濃厚飼料		前期	中期	後期1	後期2																																		
27か月間肥育 (試験区)	給与月齢	10～14.5	14.5～22	23～25	26～27																																		
	給与内容	濃厚飼料 粗飼料	10～12か月齢 粗濃比30%	飽食																																			
				飽食																																			
30か月間肥育 (対照区)	給与月齢	10～14.5	14.5～25	26～28	29～30																																		
	給与内容	濃厚飼料 粗飼料	粗濃比20%	飽食																																			
				飽食																																			
	<p>3 枝肉格付成績</p> <p>枝肉重量、ロース芯面積、バラ及び皮下脂肪の厚さ、BMSNo、肉及び脂肪の色調・質のいずれの形質についても差は認められない。</p>																																						
	<p>4 生産コスト</p> <p>3か月の肥育期間の短縮により飼料費及びその他のコストを含め、1頭あたり29千円のコストの低減効果が図られる。</p>																																						
期待される効果	通常の肥育方式と同程度の枝肉成績を維持しながら肥育期間の短縮が可能であることから、和牛肥育経営におけるコスト低減が図られる。																																						
普及上の注意事項	20か月齢前後のビタミンA欠乏に注意を要する。																																						
担当	青森県農林総合研究センター畜産試験場 繁殖技術研究部	対象地域	県下全域																																				
発表文献等	あおもり農業 平成18年5月号(掲載予定)																																						

【根拠となった主要な試験結果】

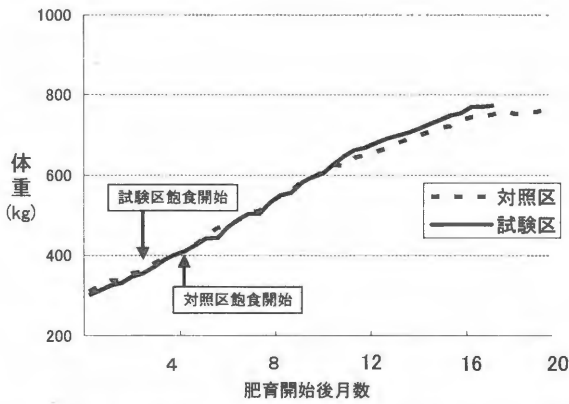


図1 体重の推移 (平成17年 青森農林総研畜試)

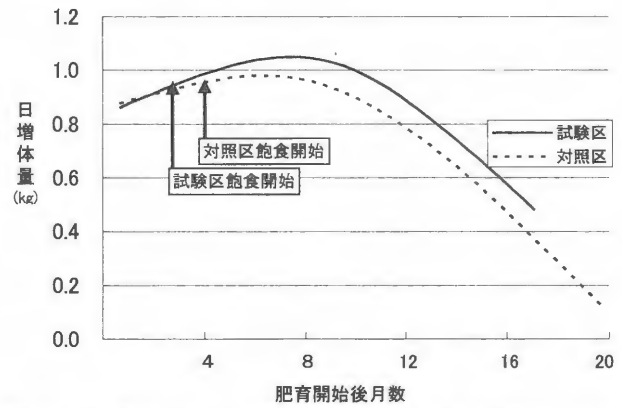


図2 日増体量 (平成17年 青森農林総研畜試)

表1 枝肉格付結果 (平成17年青森農林総研畜試)

区分	試験区 (n=6)		対照区 (n=6)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
終了時体重 (kg)	774.0	50.8	763.5	40.5
枝重 (kg)	501.5	40.2	489.0	29.4
ロース (cm ²)	63.3	6.1	59.5	7.1
バラ (cm)	8.3	1.0	9.1	1.2
皮下脂肪の厚さ (cm)	2.4	0.5	2.5	0.6
歩留基準値 (%)	74.9	1.1	74.9	1.2
BMSNo.	6.5	1.4	7.2	1.3
光沢	4.0	0.8	4.3	0.8
締まり	4.0	0.8	4.3	0.8
きめ	4.3	0.5	4.7	0.5
BFSNo.	3.0	0.0	3.0	0.0
光沢と質	5.0	0.0	5.0	0.0
上物頭数 (4以上)	4		5	

表2 生産コストの比較 (平成17年青森農林総研畜試)

		試験区A	対照区B	A-B	
生産コスト	飼料費	濃厚飼料	209,493	234,003	-24,510
		粗飼料	41,880	33,961	7,919
		合計	251,373	267,964	-16,591
	飼料費以外の生産コスト		426,469	439,798	-13,329
	合計①		677,842	707,762	-29,920
粗収益②		766,502	766,502	0	
所得②-①		88,660	58,740	29,920	